

# 歴史探訪

## クラブ

其の  
156



History Inquiry Club

文化財課 ☎23局3635  
FAX 22局3811

### 大山灯台の歴史

大山の中腹にある白山比咩神社(越戸町)に参拝したのち、太平洋を眺めました。広がる海には漁船はもとより、貨物船が行きかう景色が印象的でした。

私たちの祖先は、生活の糧ばかりでなく多くの希望を胸にこの海原へと果敢に向かい、他国との国際化を進めたのです。渡辺華山がこの太平洋のかなたに西洋の国とつないでいることを実感したのも、このすばらしい景色を見たからです。



●まぼろしの私設大山灯台

さらに、越戸町に明治21年7月19日に竣工した「私設大山灯台」のことに思いを巡らせました。この灯台は、和地村、越戸村の有志が発起人となり計画されたものです。

古くから海の難所でもある渥美半島沖は、江戸時代にも多くの船が難破しました。そして大山灯台設立の趣意書に、明治五年以来、本年ニ至ル十年余、浜海ニ於テ覆没スルモノ四十艘ノ多キニ至ルとあり、切実なものとなっています。

しかし、私設大山灯台はこの海の安全を守るための施設にも関わらず、手続きや資金の調達など思うようには進まず、明治16年から5年の

時を経て、やっと実現しました。当時の通信大臣、榎本武揚名で点灯の許可が下りたのは明治21年8月4日のことでした。灯台は越戸町の西のはずれ、海を臨む崖の上に設置されましたが、現在では、その場所を知る人もいなくなりました。

記録によると、灯台は木造六角形で、白色に塗られていました。基礎から灯火までの高さは約5・1m、海面からは約24・5m。計画では、その光は晴天の夜では八里(約24km)まで到達するとしています。

渥美半島には、防波堤にある灯台を除き、「伊良湖岬灯台」「立馬崎灯台」があります。

伊良湖岬灯台は、昭和4年に点灯されました。風光明媚な立地、美しい外観から「日本の灯台50選」にも選ばれ、恋人たちの願いがかなうスポットとして人気があります。灯台の解説には「この灯台が



●伊良湖岬灯台と神島の絶景

昭和四年の点灯以来、数多く船人の命と貴重な財貨を人知れず救ってきたのであることを想うとき、これからの夜毎美しい光を沖行く船に投げ掛け続けるように祈念するものがあります」とあります。切実な海の安全のために作られた灯台が、今やこのようなかたちで親しまれていることは、設置に尽力した人は思いもよらないことでしょう。

この海を照らす灯火には、明るさという「安全」だけでなく、「希望」を私たちに与えてくれるのです。

一方、私設大山灯台は、苦勞して許可を得たにも関わらず、灯火はまもなく消え、その存在も忘れ去られてしまいました。(増山)

### 今月の「表紙」

▼田原が生んだ幕末の先覚者・渡辺華山の菩提寺として名高い城宝寺。本堂奥の霊牌堂まで足を運び天井を見上げると、数々の美しい花の絵が一面に広がっています。この絵は、松林桂月画伯をはじめ、日本有数の画家や書家が描いたもので、ひと目見ようと多くの方が訪れているそうです。今の自分を見つめ直す、そんな場所でした。(I)

【表紙の写真】  
城宝寺 華山霊牌堂の天井画(田原町)